

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度(令和5年度)で10回目となります。

中国四国農政局管内では161件の応募があり、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として7地区と2名が選定されました。

また、中国四国農政局では、応募のあった地区(者)の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として12地区と1名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として23地区と1名を選定しました。

さらに、今回は「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」が平成26年から始まり、第10回を迎えた記念として、過去に選定された優良事例の中から、選定後に著しい発展性がみられ、全国の模範となる事例を募り、18地区と4名の応募がありました。

今年度、応募のあった地区(者)の事例について、その地域の「農山漁村(むら)の宝」として広く発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にいただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページをご覧ください。

URL: <http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>

令和6年3月

中国四国農政局農村振興部都市農村交流課



目

次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」全国選定 及び 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」 の取組概要	1
○ 応募地区一覧	5
○ 応募地区位置図	6
○ 応募地区の取組事例	7

第10回ディスカバー農山漁村(むら)の宝 全国選定



島根県大田市

大田商工会議所

グランプリ

★漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。

★大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。



行列ができる飲食店のあなご天井と漁業者

島根県大田市

笠木 真衣

優秀賞

★平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ヒツジの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。

★農地(5反)を取得し米を作り、羊のフンや敷藁を堆肥化して活用。生産した米は「ヒツジ米」として販売。羊の放牧による除草や、自治会と共同で毛刈イベントを開催。



糸紡ぎのようす



ヒツジの放牧風景

高知県大月町

大月町備長炭生産組合

優秀賞

特別賞

★地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。

★地元小中高生への森林環境教育の継続的な開催のほか、育成した苗木を町有林に植栽することで資源循環利用による持続的産業を実現。



植樹祭



小学校での「製炭学習」

広島県神石高原町

株式会社BINGO

特別賞

★有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命を有効活用する取組。

★個体判別により食肉用とペットフード用に分けることで顧客満足度を向上させ、地域のジビエ肉のブランド化やペットフードの輸出も視野に入れるなど活動を拡大。



処理された猪肉



ペットフード
プロモーション活動

愛媛県伊方町

朝日共販株式会社

特別賞

★フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同し、しらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。

★バイオプラスチックトレーへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。



しらす漁



藻場礁設置

高知県黒潮町

特定非営利活動法人
NPO砂浜美術館

特別賞

★4kmの砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。

★砂浜に隣接したスポーツ施設を活用して合宿や大会を開催し、宿泊・弁当等を手配。また、南海トラフ巨大地震の津波予測をきっかけに防災学習プログラムを開発し、主に中高生の教育旅行を受け入れを実施。



Tシャツアート展



海の脅威と恵みを学ぶ
防災学習プログラム

- ★ECサイトやSNSを活用して消費者から事前に注文を受けて、必要な魚だけを得る国内初の「完全受注漁」を実施。
- ★水産資源の乱獲、価格の不安定性、漁師の過労問題、後継者不足問題といった、現在の漁業の課題解消に取組。



国内初の「完全受注漁」に取り組む富永夫妻



鮮魚セットを作っている様子

- ★オーナー不在のぶどう園を、リカレント教育受講を通じて関係構築した社会福祉法人と共に引き継ぎ運営。農福連携で生産した果実を加工し付加価値をつけて販売することで収益性を高めるとともに、サステナブルな商工農福連携活動を実施。
- ★収穫したぶどうの規格外品をジャム加工しパンを販売する他、農福連携事業者から苺を調達して新たなブランド化を行うなどの取組も実施。



オーナー不在の竹原市の令和5年 新ブランドぶどう園を再生 「果実なくリーむパン」

- ★地域の海・山・里の豊富な食材を一つの取組に巻き込むコンテンツとして「プリン」に着目。「デザート」と「デリカ(惣菜)」の2カテゴリーのプリンを活用した官民連携のまちおこしを実施。
- ★1次生産者等の所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上に向けて、広島みはらプリンの認定や催事への出店、販路開拓等を実施。



各催事では約15~20種のプリンを販売



ガイドブック「おでかけプリン」

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定



- ★沿岸漁業者(小型底曳網)が中心となり鮮魚を直売。平成25年から令和4年までの間、漁村市を28回開催。現在は年4回毎回1500人前後が来場。消費者と直接言葉を交わして魚の特徴、調理方法を伝え、効果的に魚食を普及。仲買と連携し、ふるさと納税返礼品としても提供。
- ★地元高校が市を課題研究の場とし、市の運営に協力。地元水産関係企業へ就職する生徒も。園児には売り場見学やタッチングプール等の食育も実施。



大盛況の中野港漁村市



高校生が未就学児に境港サーモンを見せる

- ★永田集落農地・水保全管理活動組織を中心に行ってきた棚田のシバザクラ植栽活動、農村景観による都市との交流の広域展開、更なる地域活性化のため令和4年度設立。シバザクラ9万本、花桃500本を植栽。
- ★春に「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。SNS等で積極的な情報発信を行い4年度は約4,000人来場。関係人口増と地域活性化に効果。



各スポットにシバザクラ花絨毯と花桃が満開に



「シバザクラの里猿隠高原比田米®」販売中!

- ★日生町にて漁協、小中高生、消費者等が協力しアマモ場を再生。アマモ場や再生活動を海洋教育の土台とし、地域内外の学校や市民、様々な業種の人々が地域や世代、立場を超え共に取り組む。
- ★海洋プラチックごみも、子どもたちと拾い、どこから流されてくるか一緒に考え、ごみを使ったアート作品を作る。令和4年度の海洋教育と体験の参加者数は2,532人。



アマモ流れ藻回収



小学生による海ゴミの回収

カンキツスタンドオレンジ

- ★様々な柑橘が生産されている瀬戸田地区が抱える、生産者の高齢化、柑橘加工品の販売先確保等の課題解決の取組。
- ★地元の株式会社Stapleが令和4年7月から瀬戸田の柑橘を専門に扱うジューススタンドをJR尾道駅1階に開業。農家と直接取引を行い現在23種類の柑橘ジュースを販売。令和4年度売上は10,800千円。
- ★取引生産者は3軒から10軒まで増加。店舗販売以外に広島市内や都内でのイベントに積極的に出店し、瀬戸田の柑橘をPR。



店舗で販売をしている
ジュース・かき氷



瀬戸田の柑橘農家と
共同開催をした
ジュースの試飲会

株式会社神東ファーム

- ★平成30年、神東地域振興協議会が地域おこし協力隊員とレモン栽培を構想中「後発組は希少価値の高い新品目で勝負」とマイヤーレモンを選択。
- ★栽培方法を習得後、同協議会の部会「レモンの会」を発足し、借り受けた耕作放棄地を開墾。行政の支援で(株)神東ファームを設立。
- ★地元銀行等の支援を受け、地元大手スーパーや老舗旅館など県内販路が定着。果汁100%の「そのまんまのマイヤーレモン」も今年から販売し千数百本が完売。令和4年度の収穫量は7t、売上は3,400千円。



11月頃のマイヤーレモン



小学生の農業学習

一般社団法人 そらの郷

- ★世界農業遺産認定「にし阿波の傾斜地農耕システム」による農山村のサステナブルな暮らしを体験する観光で、観光客増による所得向上、新たな雇用創出等地域活性化に取り組む。
- ★体験型教育旅行として、都市部中学生・高校生の受入家庭での農作業体験、収穫物の共同調理など農泊体験を商品化。
- ★農山村散策や農家での餅つきなどを組み込んだツアーによるインバウンド誘致が、「桃源郷」と称される農山村の風景や文化、地元農業者等のホスピタリティの面で高く評価されている。



伝統的な農作業
ツチアゲ体験



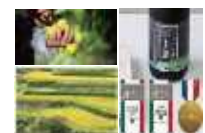
地元農家との交流
(餅つき体験)

株式会社本家松浦酒造場

- ★酒造会社が県内の様々な関係者と連携して行う取組。
- ★平成元年から原料を全て徳島県産にした日本酒の製造や平成24年から徳島県上勝町の棚田米を使用した日本酒、ゆこう使用のリキュールの製造の取組を通じ、生産者と連携。近隣の醤油蔵と連携した見学会を実施。令和4年度は直売所来場者15,876人、売上は26,000千円。輸出にも取り組む。
- ★大阪国際万博等のインバウンド需要を見据え、YouTubeなどで酒蔵地域周辺を案内する多言語化動画の配信やHPを作成。



酒蔵でのイベント
開催



棚田米やゆこうを
使った酒造り

一般社団法人さぬき市津田地区 まちづくり協議会

- ★津田地区の海辺を中心としたエリアリノベーションと農泊の推進。
- ★使わなくなった漁業倉庫や空き家への新規出店希望者の誘致、移住者支援を実施。令和4年に市と連携し地域おこし協力隊制度を活用した新規出店(ピザ店)をきっかけに出店増加。応募時点で4店が開店し今後も開店予定。
- ★地域おこし協力隊募集の際、採用者以外の応募者も協議会等がサポートし、家族を含む9名が市内に移住。



PORTO
PIZZA



空き家DIYの様子

愛媛県西条市

愛媛県立丹原高等学校 草花班

- ★地域を花木の一大産地とするため産官学民が連携し、苗の生産技術を確立する取組で、苗生産が不安定な品目の穂木～発根～出荷のプロセス構築の研究を同校が担当。
- ★同校の菊栽培技術を応用し平均19%の発根率が62%と有効性を確認。挿し穂の直径や挿し木時期による違い、地元JAと連携した生育環境での違いも調査。農家に還元可能な技術として成果は県東予地方局の「花木栽培マニュアル」に掲載され普及。地域では花木を主とした新規就農者も誕生。そのほか花木のPR活動も実施。



花木のPR活動



産官学民連携
プロジェクト成果発表

愛媛県宇和島市

企業組合津島あぐり工房「あすも」

- ★平成15年創業。地域の豊かな農水産物の加工品・惣菜など製造販売。地域農産物の需要拡大と、地域経済活性化による成長持続型活動を展開。
- ★平成24年「企業組合津島あぐり工房」として法人化。農家レストラン「あすも」をオープン。令和4年度の売上は42,000千円。スタッフが創業当初の4人から9人に増え、令和4年から廃校活用の新店舗に移転。
- ★平成30年西日本豪雨災害の教訓で始めた月一回の「ふれあいモーニング」は1日100人以上が来店。地域コミュニティの場に。



人と食、人と地域、
食と地域をつなぐ活動一覧



廃校教室を活用した農家
レストラン部門「あすも」

高知県香南市

井上ワイナリー株式会社

- ★高知の気候・風土に適したブドウ品種を選び、県内各地の生産者と一緒に栽培。県内各地の様々な料理と合うワインを醸造し高知の新しい食文化を提唱。
- ★平成24年に南国市で定植以来、栽培を5市町に拡大。耕作放棄地も再生。地元の老人クラブや高校生に収穫やラベル作りの手伝いを依頼。
- ★令和3年に自社醸造を開始、令和4年にショップを併設。ワインの試飲・販売、地域食材使用のグロスリー商品等販売。売上は令和4年度61,822千円。



地域の方々と共に
収穫作業



地元高知産ブドウを
使用したワイン

高知県津野町

農村交流施設「森の巣箱」運営委員会

- ★住民の声をきっかけに、廃校となった旧小・中学校の校舎を活用し平成15年に設立した「森の巣箱」は、集落コンビニ、居酒屋、宿泊施設を備えた複合交流施設。
- ★安定経営のため、運営費用は各世帯の出資金、世帯毎に毎月「購買協定」を締結。宿泊施設で得た外貨も活用した、補助金に頼らない運営。施設職員(常勤1名、パート1名)以外住民も役割分担。
- ★イベント開催や修学旅行生受入も実施。令和4年度の売上は、コンビニ1,636千円、居酒屋1,282千円、宿泊施設3,039千円。



集落コンビニ



居酒屋

徳島県阿波市

寺井 稔

- ★平成24年に発足した阿波市の農業後継者グループ「GOTTISO阿波」の中心メンバーとして活動。
- ★農業や野菜の魅力発信、所得向上や農業人口増加を目指した活動、野菜の出張販売や広報を行い、地域のナスをブランド化。ナス好きの子供を増やそうと地元幼稚園や小学校で食育実施。
- ★グローバルGAP等を取得し2020東京オリ・パラの選手村へブランドナスを納品。それをきっかけに輸出、新たなブランド野菜育成に努める。



コロナ禍が明け
試食販売を再開



食育の授業

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第10回選定) 応募地区 一覧 (鳥取県)

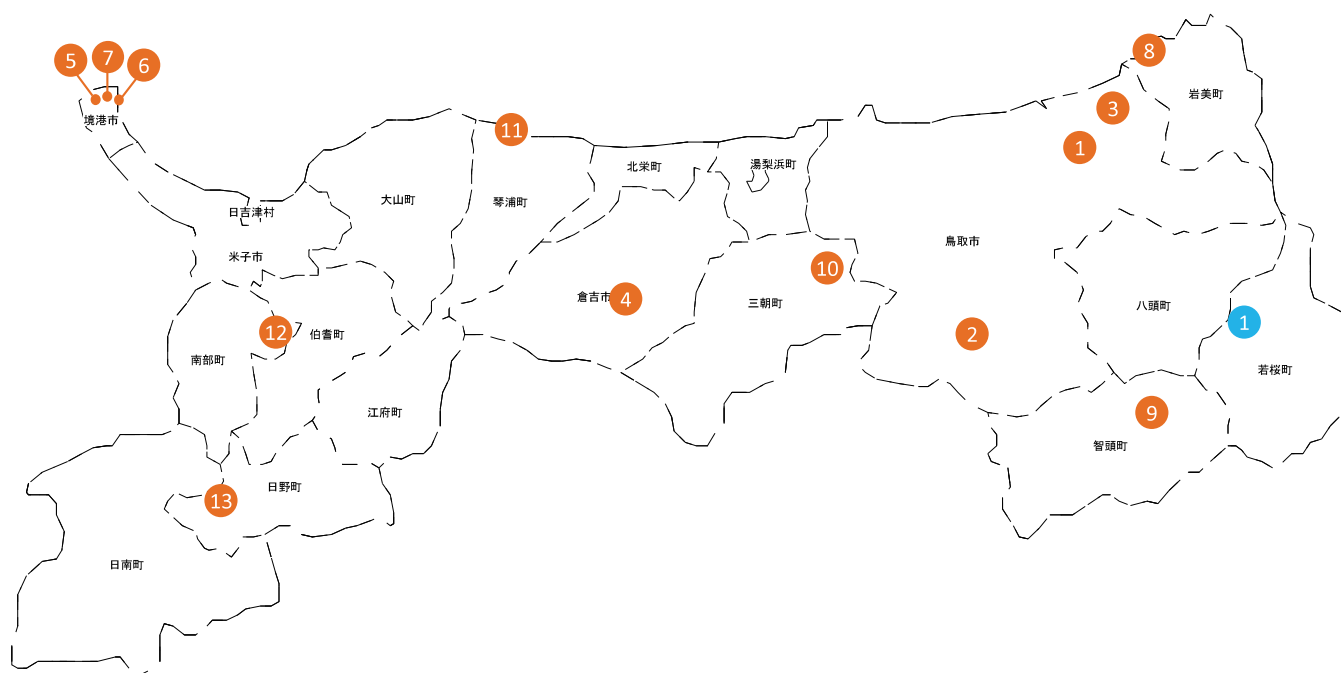
No.	選定地区	部門	市町村	地区名	該当する取り組み		
①		団体	鳥取市	株式会社 アクシス	地産地消	食育・教育	学生・若者の活躍
②		団体	鳥取市	佐治漆研究会	6次産業化	伝統の継承	荒廃農地対策
③		団体	鳥取市	浜湯山・多鯨ヶ池活性化委員会	農村文化体験	環境保全	農村環境・景観保全
④		団体	倉吉市	倉吉市体験型教育旅行誘致協議会	女性・高齢者の活躍	農泊・インバウンド	都市と農村の共生
⑤		団体	境港市	一般財団法人境港市農業公社	伝統の継承	荒廃農地対策	地域住民との協働
⑥		団体	境港市	さかいみなと中野港漁村市実行委員会	水産業	食育・教育	-
⑦		団体	境港市	特定非営利活動法人 未来守りネットワーク	環境保全	食育・教育	学生・若者の活躍
⑧		団体	岩美町	ワカメ部	水産業	伝統の継承	食育・教育
⑨	奨励賞	団体	智頭町	良菜会	高齢者の活躍	女性の活躍	関係人口の創出
⑩	奨励賞	団体	三朝町	田舎応援戦隊 三徳レンジャー	農業	6次産業化	学生・若者の活躍
⑪		団体	琴浦町	鳴り石の浜プロジェクト	伝統の継承	農村環境・景観保全	関係人口の創出
⑫		団体	南部町	一般社団法人 里山生物多様性プロジェクト	荒廃農地対策	環境保全	学生・若者の活躍
⑬	奨励賞	団体	日野町	菅福元気邑	6次産業化	伝統の継承	高齢者の活躍

第10回記念賞応募地区

No.	部門	市町村	地区名	過去の選定実績
①	団体	若桜町	わかさ29工房	平成29年度(第4回)選定

応募地区位置図（鳥取県）

※ 青は第10回記念賞応募地区



かぶしきがいしゃ

株式会社 アクシス

～農作物で人と人をつなぐ～



売り場の様子。季節によって大きく変わる



子ども食堂関係者へ食材を寄付する様子

経緯

- 子ども食堂を支援する中で、資金と食材不足の課題を抱えていると同時に、規格外・余剰野菜といった食品ロスが生まれている現状も知った。
- 生産者と商品、そして地域の橋渡しをすることで、人と人とのつながりの醸成とSDGsの実現を目指し「Axisのやさい」を開始。

取組内容

- 規格外・余剰野菜を生産者から仕入れ、地域住民に安価に販売。商品の一部を子ども食堂へ寄付。
- 「農作物で人と人をつなぐ」のコンセプトのもと、これまでに30軒の生産者の協力を得、延べ923種類の商品を出品。運営には自社社員のボランティアをはじめ、生産者や地元大学の農業サークルに所属する学生、高校生も参加。

活動の効果

- 生産者から子ども食堂に、別途野菜の寄付をいただくことや、活動や生産者のファンが生まれるなど、小売販売の枠を超えて地域の人と人をつなぐ役割を果たしている。
- 令和5年は3月11日を皮切りに計13回実施。地域性の高い出店者が集まるイベントに出店、出店者同士の交流が生まれ、コミュニティの創出に寄与していると考えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「Axisのやさい」を通して芽生えた繋がりや輪を広げていくことで、食品ロス削減や子ども食堂の継続支援に取り組み、未来に向けて地域とともにSDGsの実現に貢献していきたいと考えている。

住所・電話番号・SNS等

鳥取市扇町7 Tel:0857-50-0375

さじうるしけんきゅうかい

佐治漆研究会

～六^{ろく}しの里と佐治漆復活による地域活性化～

佐治漆の森
(防獣柵設置によりシカの食害を軽減)



親子による植樹祭
(地域住民との協働)



公立鳥取環境大学での
漆塗り体験ワークショップ

経緯

- 佐治漆は、江戸時代初期に本格的な生産が始まり、「天下一品の佐治漆」として、全国的にも有名であったが、昭和40年を境に衰退。
- 国産漆が欠乏する現状を踏まえ、良質な佐治漆の生産・流通の復活とブランド化を図るため、平成28年に地元有志による「佐治漆研究会」を設立。

取組内容

- 「天下一品 良質の佐治漆」の生産・流通の復活とブランド化、6次産業化による「漆の里づくり」の推進に向け、現存する漆を分根して増殖。
- 「佐治漆の森」づくりとして、果樹園や畑の跡地を利用し、1000本の植栽を目標に現在200本を育成。
- 漆器の製造や佐治和紙とのコラボによる商品化、漆産業に携わる技術者の育成、確保。
- 地元小学生、中学生、高校生、大学生を対象とした漆掻き・漆塗り体験や消費者を対象とした漆料理教室・講座・ワークショップ等を開催。

活動の効果

- 新聞やテレビで佐治漆の復活に向けた活動が取り上げられ、市民の関心が増加。公立鳥取環境大学では佐治漆に関心を抱いた環境学科の学生が漆塗りのワークショップを体験。
- 県立鳥取西高校において「漆セミナー」を開催し、佐治漆を研究した学生がその成果を日本地理学会で発表し、理事長賞を受賞。
- 学生向けの体験活動、公民館での講座等の開催により、佐治漆の知名度が向上。「佐治ふるさと祭り」での漆塗り体験教室の開催、活動内容の展示により、地元住民の理解が増進。

応募団体からのアピール・メッセージ

佐治町では、「五(ご)しの里」(和紙、梨、星、佐治川石、佐治谷話)という地域おこしを行っており、当研究会では、これに佐治漆を加えた「六(ろく)しの里」づくりを推進する。

また、地元では、佐治漆生産の期待も大きく、欠乏する国産漆生産の一翼を担えるようになりたい。基盤ができれば、雇用が増え、新たな漆産業が生まれ、観光産業にも繋がり、過疎の町は活性化すると確信している。

住所・電話番号・SNS等

鳥取市佐治町津野 Tel: 0858-75-2228 <https://sajiurushi.wixsite.com/sajiurushi>

はまゆやま たねがいけかつせいかいいんかい

浜湯山・多鯰ヶ池活性化委員会

～行政にお願いする前にまず、自分たち団体の出来ることから始める！～



多鯰ヶ池年末花火大会の自費開催



福部駅の利用客減少ハドメ・話題性ある駅舎

経緯

- 山陰海岸ジオパークは平成22年10月に世界ジオパークネットワークに認定され、鳥取砂丘と多鯰ヶ池がジオサイト認定。
- 鳥取砂丘は日本でも有数な観光地で多くの観光客が訪れていたが、近くの多鯰ヶ池を訪れる観光客は極端に少なく、ジオサイトに相応しい美観整備、インフラ整備を進め、観光客の集客向上を目的に活動。

取組内容

- ジオサイトへの受け入れに恥じない環境を整える活動。
- 多鯰ヶ池のある福部町全体の活性化を目的として、特に将来、福部町を担う子供達へ福部町の成り立ち、今に残る歴史遺産、史跡などに関する出前講座の実施。
- 町全体の共通課題でもあるJR西日本「福部駅」の活性化を図るため、福部らしいイラストを描くなど、話題性のある駅前の環境整備に取り組む。
- 令和4年度、多鯰ヶ池年末花火大会を自費開催。

活動の効果

- 組織の出身集落「浜湯山」の活性化を目的に活動範囲を拡充、集落内の耕作放棄地を活用したスイカ農園や大賀ハス農園を整備。
- 豊かな福部町になった歴史、先人達の砂と水との戦いで梨やらっきょうの一大産地となった歴史について、子供達と1冊の「福部歴史読本」を作成し、歴史講座を実施。
- 福部駅の活性化活動は持続可能な活動となるよう、福部町内の各種団体でそれぞれ活動テーマを分割して取り組み中。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の課題に向けて活動の協力も得やすいが、福部町内を活性化するためには「まちづくり協議会」や「区長会」等の町全体が見える立場の組織が行政とともに調整して進めてもらいたい。

住所・電話番号・SNS等

<https://www.tanegaik.com/>

くらししたいけんがたきょういくりょこうゆうちきょうぎかい

倉吉市体験型教育旅行誘致協議会

～いなかといいなか セキガネたいけん～



本格的に再開した民泊体験



受入家庭同士の体験勉強会

経緯

- 過疎化・高齢化が進む中山間地域で民泊を利用した農業体験ツアーを商品化し、都市部からの誘客や都市部の住民や学校との交流、住み慣れた地域に誇りと愛着を持ち、安心して住み続けられる地域の構築を図る。
- 地域活性化や農家等の所得向上を狙い、農村家庭への民泊交流体験活動を実施。

取組内容

- 修学旅行を中心に、主体は農家民泊体験の受入。魚つかみどり、竹細工、牛飼いや等の農村生活を体験できるプログラムを実施。
- 令和5年度の民泊体験受入の再開に際し勉強会や検討会に女性・高齢者が積極的に参加。
- コロナ禍で受入できない期間は、感染症専門の大学教授を招き、講演会、講習会の開催、受入家庭同士で勉強会や検討会を実施し、感染への対策を行った。

活動の効果

- コロナ禍は講演会、講習会、勉強会を実施し、受入再開の準備を進め、令和5年度はシーズン通じて農村生活体験、民泊体験を再開し、約1,000人を受入れた。
- 訪れた生徒、先生、保護者から感謝の言葉をいただき、改めて人の交流の素晴らしさを実感した。
- 民泊体験受入家庭の多くは高齢者であり、受入の中心となる婦人層や高齢者の活躍の場にもなっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

コロナ禍でも、教育旅行民泊体験の需要があった。今後もコロナ感染症の状況を注視しながら、教育旅行誘致と受入を継続する。

インバウンドの教育旅行も令和5年度1校受入。今後、本格的な再開を目指す。

住所・電話番号・SNS等

倉吉市関金町関金宿1139 Tel:0858-45-1122

いっばんざいだんほうじんさかいみなとしのうぎょうこうしゃ

一般財団法人境港市農業公社

～和綿「伯州綿」を活用した地域活性化事業～



【ぬくもりの綿リレー】地域の人たちで育てられたぬくもりの綿が、次世代へまごころのバトンをつないでいます



催し「てぬぐいひらひら」

経緯

- 境港市内の遊休農地を解消するため、江戸時代から栽培される伝統的な地域資源である和綿「伯州綿」の再興を目指し、平成20年度から栽培を開始。
- 伯州綿は、鳥取県西部・弓ヶ浜の地で織り継がれてきた「弓浜緋（ゆみはまがすり）」の原料として、地域で守られてきた。

取組内容

- 栽培サポーター制度を導入し、地域住民や地域おこし協力隊員とともに農薬や化学肥料を使わない綿づくり。
- ぬくもりの綿リレー（上記参照）
- 民間事業者とともに伯州綿を使用した商品開発や販路拡大を行い、伯州綿のブランド化に取り組む。
- 小学校等での授業や体験活動の支援および普及活動。
- 毎年秋に催し「てぬぐいひらひら」の実施。

活動の効果

- 催し「てぬぐいひらひら」では、毎年1,000人以上の来場者があり、令和4年度には第27回ふるさとイベント大賞ふるさとキラリ賞を受賞。
- 栽培サポーターの人数は年々増加傾向にあり、任務を終えた地域おこし協力隊員も定住し、伯州綿に関わる事業を営んでいる。
- 遊休農地の解消や、赤ちゃんへのおくるみのプレゼントによる子育て支援、百歳を迎えられた高齢者へのひざかけのプレゼントによる高齢者支援など、多面的な効果が生まれている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域で繋ぐ、伝統の綿「伯州綿」。土地に芽吹いた小さな命を地域の人々が一丸となって大切に育て、ぬくもりの綿を活用した地域活性化を図っています。

住所・電話番号・SNS等

境港市上道町3000 Tel:0859-47-1049 <http://hakushu-cotton-sakaiminato.jp/>



なかのこうぎょそんいちじっこういんかい

さかいみなと中野港漁村市実行委員会

～沿岸漁業は地域の宝！漁業者が鮮魚を直売！～



大盛況の中野港漁村市



美保湾ブランドロゴ



高校生が未就学児に境港サーモンを見せる

経緯

- 境港市では、沖合漁業で獲れる魚種が主体で、沿岸漁業（小型底曳網）で獲れる少量多品目の魚種は余り注目されていなかった。
- この状況を憂いた地元の飲食店が、沿岸の魚種にも注目してしてもらうため、平成25年に漁協の協力の下、実行委員会を立ち上げ、プロの漁師が消費者に直接鮮魚を販売する「中野港漁村市」をスタート。

取組内容

- 漁村市を年4回開催し、漁業者がお手頃価格で鮮魚を直売。
- 美保湾ブランドロゴの作成、ふるさと納税返礼品としての出品など付加価値を付けたPRや販売による沿岸漁業の振興。
- 鳥取県立境港総合技術高校と連携し、生徒が漁村市を課題研究の場として活用し、神経締めの実演、直売・試食支援などを担う。
- 市内保育園での食育活動。

活動の効果

- 漁業者は対面販売に不慣れながらも回数を重ねるごとに手慣れて、消費者と直接言葉を交わしつつ、魚の特徴、調理方法を伝え、効果的に魚食普及が図られている。
- 漁村市を経験した高校生の中には、卒業後に地元の鮮魚仲買や水産加工業への就職や、調理・栄養系に進学するなど、水産関係人材も広がりを見せている。
- 未就学児童や高校生に漁村市を体験してもらうことにより、未来に向けた人材育成につなげている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後、漁村市では、魚に限らず白ネギなどの農産物、弓浜緋などの地域産品も販売し、「中野商店街」として地域産品と地域住民のふれあいの場としていきたい。

住所・電話番号・SNS等

さかいみなと中野港漁村市実行委員会事務局（鳥取県漁業協同組合境港支所）

Tel: 0859-44-0225

とくていひえいりかつどうほうじん

さきも

特定非営利活動法人 未来守りネットワーク

～海・川・山をつなぐ(環境保護・教育・地域再生)～



「海藻肥料」で栽培した海藻米の稲刈りイベント



「海鮮・山鮮 まげなもん祭」の様子

経緯

- 時代の変革により中海(なかうみ)干拓が中止となり、水質悪化が進んだ中海を再生させるとともに、若手地元企業人が環境保護・教育・地域再生を行うため、平成16年に当法人を設立し、活動を始めた。
- 中海再生プロジェクト「よみがえれ中海」をテーマに、環境保全・再生活動に取り組む。

取組内容

- 中海や宍道湖(しんじこ)で異常繁殖した紅藻類の「オゴノリ」等を刈り取り、肥料製造会社と連携し、海藻肥料として活用(SDGs)。
- 魚類・水生生物が産卵し、稚魚や幼生の住みかとなるアマモ場の再生。
- 海藻農法(海藻肥料を使用した農法)による「海藻米」の田植え・稲刈りイベント。
- 海藻農法で栽培された農作物や水産物をPR・販売するイベント「海鮮・山鮮まげなもん祭」を年3回以上開催。
- 海藻農法で出来た野菜類や米などに親しんでもらうため、「境公民館まつり」へ農作物を提供。

活動の効果

- 毎年、紅藻類の「オゴノリ」等を刈り取ることで、水質浄化や漁業資源回復に寄与。
- 刈り取った海藻を有機肥料(海藻肥料)として活用、現在、海藻農法の取組面積は96haまで拡大。境港市の市民農園や新潟県の水稲・アスパラ、岡山県のシャインマスカットなどにも採用されている。
- 境港市では食育の観点から「海藻米」を学校給食に採用。また、境港市、日野町、日南町、伯耆町では、子ども達が海藻米の「田植え・稲刈り」に参加し、食育につながっている。
- 中海の水質浄化、魚介類の産卵・育成場のための「アマモ類」の種子採取(6月)・移植活動(11月)を通じて、環境教育につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

SDGsの観点から宍道湖・中海の水質浄化のために刈り取った海藻を転換した有機肥料(海藻肥料)を使った農作物栽培を国・県・市町村と連携して、拡大させたいです。

住所・電話番号・SNS等

境港市大正町38 Tel:0859-47-4330 <http://www.npo-sakimori.net/>

ワカメ部

～秘密の特産品『天然・板ワカメ』を世界に発信！～



板ワカメの大きさ世界一になった瞬間



レジェンド(ベテラン生産者)から学ぶ板ワカメ作り講座

経緯

- 山陰地方の定番食材である板ワカメは、全国的な知名度は低いが、希少な天然ワカメを天日干したものだ。近年は生産者が減少してきた。
- 岩美町網代地区に50～60軒あった生産者は、わずか1軒のみとなったため、板ワカメを通じて地元を盛り上げたいとワカメ愛好家が集まり、平成30年にワカメ部を発足。

取組内容

- 令和元年から「ワカメフェス」を開催。世界一となる畳8畳分の板ワカメの作成、個性的なメンバーの特技を活かしたワカメソングやワカメ落語の披露、ワカメアクセサリ等の開発により、地元板ワカメの魅力をPR。
- 老舗せんべい屋の人気商品「板わかめせんべい」の復活をサポート。
- 食べたことがあっても、板ワカメを作った経験者は少ないため、板ワカメ作りワークショップによる食育の実践。

活動の効果

- 地域や第一次産業、あるいは地球に存在する課題の解決に挑戦する生産者を表彰する「ポケマルチャレンジャーアワード」において、令和3年に「特別賞」を受賞。
- 板ワカメの生産者減少より、材料が手に入らなくなったため、生産を中止していた「板わかめせんべい」を鳥取市内の有名な老舗菓子店「たまだ屋」と連携して復活。
- 食文化の継承を目的に、板ワカメ作りワークショップを実施。地元小学校の校外授業では、地元レジェンドの協力も得て、令和4年からワカメ部の代表が講師を務めている。

応募団体からのアピール・メッセージ

ワカメ部は、鳥取の特産品・板ワカメを斬新な情報発信、エンタメ化によってPRする活動を通じて、板ワカメの認知度アップと生産者拡大を目指しています。講演や出展なども出来ますので、お気軽にお声がけください。

住所・電話番号・SNS等

メールアドレス:wakame.club.6810074@gmail.com

奨励賞

りょう さい かい
良 菜 会

楽しく、仲良く、元気よく！～食で繋ごう～



シニア・移住者など多彩で多才なメンバー



イベントへの出店

野菜宅配便

経 緯

- 30年ぶりにUターンした現会長が、今まで気づかなかった地元の良さを再認識し、地域の活性化や元気づくり役立ちたいとの思いから、周囲の住民に呼びかけ、平成22年に本会を立ち上げ。
- 発足当時7名であった会員は、現在25名に増加し、活動内容や範囲も拡大。

取組内容

- 会員の能力・経験を活かし、協力しながら、
- 地域で穫れた野菜、米、花卉の出荷・販売
- 自家栽培米の麴での手作り味噌の製造・販売
- ミニデイサービス等への弁当・料理の提供
- イベントへの出店、加工品・総菜の通販、伝統食文化の継承
- 生産技術の向上と情報の共有
- 農業体験や企業・団体等との交流会等を実施。

活動の効果

- 直売所への野菜等の出荷に加え、令和2年度から野菜宅配便として県外にも提供し、美味しいと好評。また、関係者からの要望等を踏まえ、ミニデイサービスへの昼食（年間約950食）や森林セラピー体験者への弁当、会食料理（年間約300食）を提供。
- 手作り味噌の町内の学校給食での活用やふるさと納税返礼品での採用。
- SNSの活用やメディア（新聞・TV取材等）での発信により認知度がアップ。など、会の活動が、会員の生きがいとなり、心の拠り所となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

新たな加工品の開発、担い手の育成、伝統的な郷土料理の継承など、良菜会の活動を地域にもっと活かしていきたい。

また、SNSを活用し情報を発信中。「いいね」「フォロー」をお願いします。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

八頭郡智頭町芦津 Tel: 0858-75-2492 <https://www.facebook.com/ryosaikai/>

奨励賞

いなかおうえんせんたい みとく

田舎応援戦隊 三徳レンジャー

～三朝町のおいしいお米を全国へ～



それぞれのカラーで地域の魅力を発信！



「はい、どうぞ！」笑顔を添えて販売しています

経緯

- 平成21年4月発足。鳥取大学の学生が農山村へ行き、農業ボランティアを行う「農村16きっぷ」という団体から派生した。
- 農村16きっぷが三朝町三徳地区へボランティアに行った際、農家の方から「休耕田を利用して自分たちの力でお米を作ってみないか」と声をかけられたことをきっかけに活動が始まった。

取組内容

- 紙マルチを用いた除草剤を使わない農法、殺虫剤の使用回数を減らすなど環境に優しい米づくりに挑戦。
- 収穫した米は、玄米や精米として販売するほか、米粉加工品として県内外へ販売。
- 「田舎応援戦隊」の活動では三徳山の炎の祭典や御幸行列などに参加し、地域との交流を活発に行った。また、三朝温泉観光大使として、三朝温泉の魅力発信にも尽力。

活動の効果

- メンバーは米の生産、加工、販売まで直接携わっており、「ヒエ取り合宿」などの実践を通して得られる学びが農業に対する理解と地域との関わり深化に繋がっている。
- 令和2年度には、食と農林漁業大学生アワードにおいて最優秀賞並びに日本海新聞地域貢献賞を受賞した。
- 活動を広めるために、SNSを活用した広報活動を強化し、鳥取県内外への販路を開拓したい。また、地域との交流を通じ、地域をさらに盛り上げていきたい。

応募団体からのアピール・メッセージ

環境に配慮した農業の形を模索しながら、より多くの方に私たちの育てたお米のおいしさを伝え、三朝町をさらに盛り上げていきたい。

住所・電話番号・SNS等

鳥取市湖山町南1丁目246 代表:柳 メールアドレス:mitokuranger.mail@gmail.com

な いし はま
鳴り石の浜プロジェクト

～「よく鳴る♪良くなる」鳴り石の浜～



小学生に対して漂着ゴミの分別講座



鳴り石祭り名物 海に沈む夕日を見る来場者

経緯

- 平成23年に「山陰道東伯・中山道路」が開通したことで、町内の交通量が減少し、幹線沿いの商店は売上激減、廃業等大きな影響を受けた。
- この「まちの危機」に対し、地域の有志でプロジェクトを発足。「鳴り石の浜」に着目し、自然を通じ、地域の活性化と故郷の素晴らしさを後世へ伝える活動を開始した。

取組内容

- メンバーによる海岸清掃活動のほか、親子連れや県外者等も参加できる大規模「ビーチクリーン」を年4回開催。
- 鳴り石の浜を地域の人に親しんでもらう「鳴り石祭り」を毎年夏至に近い土曜日に開催。
- 阪神大震災に由来する「はるかのひまわり」を地域の小学生、特別支援学校生徒と育て、景観保全に寄与。
- 鳴り石海岸の石が波で動く様子やその音を物事が「良くなる」パワースポットとして発信。

活動の効果

- 海岸清掃で「自然ゴミと人工ゴミの分類講座」等を開催。小中高生から大人まで幅広い世代に対し、世界とつながっている海、自然の大切さについて理解を深めた。
- 鳴り石祭りは、メインイベントの「海に沈む夕日」を楽しみに、毎年2,000人もの来場者で賑わう。子ども達が安心して参加できる思い出づくりのイベントとして定着。
- 鳴り石の浜を「パワースポット」として発信により、お盆の頃の「青い海、青い空、黄色いひまわり」など美しい景観から大型バスが立ち寄るなど観光客の増加に寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の宝「鳴り石の浜」の価値を“楽しみながら”発信し続けることで、地域の子も達にふるさとの素晴らしさを伝えたい。

住所・電話番号・SNS等

東伯郡琴浦町赤碕1927-1 事務局:上田啓悟 Tel:090-3639-7527

いっばんしゃだんほうじん さとやませいぶつたようせい

一般社団法人 里山生物多様性プロジェクト

～南部町に日本の里山モデルを創る～



初めてつくるビオトープ



ガールスカウトとの交流事業

経緯

- 南部町では、高齢化や担い手不足により、耕作放棄地の増加と山野の荒廃に直面している。なんとかして「生き物を通じて農地や山林を元気にしたい」と発想。
- 農地や山野が持つ価値を多くの人に知ってもらおうと、人と生き物が集まるビオトープづくりから活動開始。

取組内容

- 耕作放棄地をビオトープにすることで、多様な生き物の生息場を確保。生き物調査体験会等を通じて、多くの世代にSDGsについて理解を促進。
- 自然保護の重要性や意義について認識を共有し深化させるため、県内外で環境保全や生物多様性の啓発に取り組んでいる多くの方と交流。
- 環境保全を専攻している学生のアイデアを積極的に取り入れた活動を実施。

活動の効果

- 多様な生き物が集まるビオトープを情報発信源とすることで、「里山の環境を保全することは重要である」という認識が広く深まっている。
- 若者が活動に参加することで、生物多様性の啓発のみでなく、地域文化の継承にも寄与している。
- 鳥取県が、身近な自然を認定する自然共生サイトに申請するなど、田畑や山野の価値が見直されてきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

ビオトープは、田畑や山野を少ないコストで管理する方法の一つ。ビオトープから生物多様性の意義を発信し「自然の恵みの大切さ」を共有し続けます。

住所・電話番号・SNS等

西伯郡南部町鶴田461 日本インテライツ内 TEL:080-6313-8550

<https://www.facebook.com/satoyamabp/>

奨励賞

すげふくげんきむら

菅福元気邑

～農村の食文化や伝統行事を守り続ける～



美味しいと評判の豆腐づくり



元気邑のメンバー

経緯

- 地域の小学校の廃校を機に、食文化の継承と6次産業化による地域の活性化を目指し、菅福地区連合自治会を母体として結成した。
- 作った味噌等を注文のあった家庭に配達し、高齢者の見守りや玄関先でのおしゃべり等、住民とのコミュニケーションを図り、楽しく元気な村づくりを目指した。

取組内容

- 菅福食文化伝承館を活用し、古くは各家庭で作られていた味噌、豆腐、コンニャク、餅などを生産。
- 商品は、地元の原材料を使い、無添加にこだわり手作りし、商品を販売。
- 地域おこし協力隊員を長年受け入れ、隊員とともに地域活性化の取組を実施。
- 菅福地区連合自治会の活動に対して伝統料理を提供。

活動の効果

- 高齢化などでメンバーが変わっても、「地域食文化の伝承」の思いは世代交代しながらも引き継がれ、参加者への賃金も確保でき、楽しみながら活動している。
- 味噌、豆腐、コンニャク等は、地産地消として日野町及び米子市の学校給食に提供され好評を得ている。
- 母体である菅福地区連合自治会の事業活動に対して伝統料理を提供し、活動の側面的な支援を行っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

活動は、菅福地区連合自治会の事業に女性が参加しやすい環境となり、地域の活性化の一助となっており、今後も食文化の伝承とともに、地域の見守りや、だれもが元気で楽しく生活できる場の提供や生きがいづくりに繋げていきたい。

住所・電話番号・SNS等

日野郡日野町上菅664-4 TEL・0859-74-0335

記念賞
応募にくこうぼう
わかさ29工房

～山の恵み、宝として無駄のない利活用～



わかさ29工房での視察



東京ビッグサイトで国会議員と協会との講演

取組内容

- 農作物被害により捕獲された野生鳥獣を全頭受け入れ、廃棄を減らし有効活用することが一番の目的。
- 令和3年度は、若桜町と八頭町からシカ3,387頭、イノシシ313頭を受け入れ。メインの部位は県内外高級レストラン、学校給食等へ食材提供。それ以外の部分はペットフード等の原料として販売し、極力廃棄することなく運営。

前回選定後の情報発信の取組

- 平成30年から令和4年まで、東京都・大阪府・鳥取県で15回以上の講演を実施。
- 施設の視察受け入れ日数約170日。
- 東京都・大阪府・兵庫県・鳥取県で開催された各種イベントに約10回参加。
- 東京ビッグサイトでの講演は、農林水産省・国会議員などとの連携により、わかさ29工房の取組内容・実績・表彰履歴などを紹介。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 令和元年7月、国産ジビエ認証施設に認定、ジビエ振興を全国へ発信。
- 施設の人材育成と全国から新規に処理施設を建てる予定の地域からの視察受け入れ。
- 国産ジビエ認証施設のワーキンググループ発足。
施設同士の情報共有・各施設の課題解決・経営面の取り組み・食材の需要供給など、横の繋がりを強化して広域連携をしている。WGの座長として取りまとめ役を担っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

ジビエは食材としてまだまだ認知度・馴染みの低さがあります。農作物被害の減少と日本でもジビエという食材が文化に定着するよう、今後も様々な角度から出来ることを少しずつでもやっていこうという思いで取り組んでいます。命を無駄にしない。

住所・電話番号・SNS等

八頭郡若桜町若桜999-1 TEL:0858-71-0429